



祈り

榎本 栄次

年々重い課題を抱えた子どもが多くなる。どうすればいいのだろう。悩みは深く、夜中に目が覚めて眠れない。書斎に入り、祈りに逃げ込んだ。

神様、どうしてですか。私たちがまじめに取り組みば取り組むほど、課題を抱えた子どもが増えるのは。

何の問題もない優秀な子が来てほしいです。私たちには重荷過ぎます。この子たちの前でたじろいでしまいます。

主が言われる

何の問題もない学校がいい学校か。重い課題を必死になって抱えている学校が悪い学校か。

お前たちの学校は、誰が建てたのか。

お前たちの学校は、だれのための学校か。

校長の名誉のためか。お前たちの生活のためか。

お前たちの学校の校門に何と書いてあるのか。

明日

はきだめにえんどう豆咲き

泥池から蓮の花が咲く

人皆に美しき種子あり

明日 何が咲くか 安積得也

お前は誰をゴミと呼ぶのか。

どこを泥池と言うのか。

はきだめがダメなのか。

泥池のどこがいけないのか。

そこにえんどう豆が咲き

蓮の花が咲いているではないか。

あの石碑はただの飾り物か。

敬和学園を捜してきた子どもたち、かけがえのない子どもたち。神の似姿を宿した尊い私の子もたちなのだ。彼らがわたしのところに来るのを妨げてはならない。

お前はキリストに何を求めているのだ。

お前はいつからそんなに偉くなったのだ。

いつからそんなに立派になってしまったのだ。

いつからキリストを必要としなくなったのか。

人が戦火で叫んでいるとき、

私だけが苦しまなくて済むようにと祈るのか。

人が不登校で泣いているのを見て、

自分たちの学校にはそんな子がいませんようにと祈るのか。

人が倒産して困っているのに

私は繁盛して楽ができますようにと祈るのか。

人がうつ病で悶えているのを見て

私には平安をと祈るのか。

ああ、人が泣き悲しんでいるとき、

どうして私だけが喜んでいられよう。

ああ、人が倒れ傷ついているとき

どうして何もせずにそばを通り過ぎられようか。

ああ、キリストが十字架にかけられているとき、

どうして私だけが人々から尊敬されることを喜んでいられよう。

神よ、

今、私たちに任せられたこの子たちを

神の選ばれた子として尊敬し、受け入れさせてください。

この子たちと一緒にあなたの国を目指します。

私たちの自己満足のための学校になるのではなく、今の日本に無くてはならない学校にしてください。

そのために私たちを整え、用いてください。

神の国というのは、私たちが納得でき、万歳、万歳、勝利、と言って入るところではないようです。

あなたの御国は、

怯えながら、後ずさりしながら

わが神、わが神、どうして私たちをお見捨てになったのですか、と泣き叫びながら入っていくところのようです。

神よ、私たちを整え、そこに導いてください。

次の朝の朝礼で、「これから毎週金曜日の朝6時30分から、早天祈祷会をします。一緒に祈りましょう」と職員と生徒たちに呼び掛けた。

つづく

✧ なんどきですか ✧

・オーストラリアの森林火災やカルフォルニアの山火事は深刻だ。利益追求、自分の国だけという一国主義には希望がない。地球環境の破壊は止まらない。スウェーデンの高校生グレタさんの警告に耳を傾けたい、先日のセミナーハウスでのフォーラム「エネルギーを考える」で牛山泉氏の「自然エネルギーが地球を救う」という話は大きな希望だ。
(by E.E.)

◇おさそい◇

★2月22日(土) 13:30~17:30

修学院フォーラム「福祉」
『福音家族』について」

講師：晴佐久 昌英 (カトリック上野教会・浅草教会主任司祭、
「福音家族」主宰)

★3月21日(土) 13:00~17:30

修学院フォーラム「いのち」
「ゲノム編集の光と影」

講師：中山 潤一 (基礎生物学研究所クロマチン制御研究部門教授)
講師：土井 健司 (関西学院大学神学部教授)

※通常より開始時間が早いのでご注意ください。

投稿 京都俳句きらら会他

- | | |
|-------------------|----|
| ・朝の日に立つや消えゆく霜煙 | 周豊 |
| ・リズムよく餅切る父の笑顔かな | 公女 |
| ・初日の出会釈清しき散歩道 | 茶香 |
| ・流れゆく水面にじゃれつく冬日かな | 星児 |
| ・日の入りが延びつ花芽も顔を出し | 海楽 |
| ・孫の顔家族揃って雑煮餅 | 枯骨 |
| ・去年今年小さき山谷超え行かむ | 岳 |
| ・さぎ波を残して空へ鴨の列 | 虚舟 |

♡ありがとうございました♡

関西セミナーハウス活動センターへの
賛助・寄付金

2019.12.1-12.31 順不同・敬称略

蔭山 淳、伏見一麦教会、脇坂 照世、木原 諄二、
白方 誠彌、山本 良昭、和田野 勢津子、山添みどり、
匿名、家形 日出、小久保 正、間瀬 啓允、手銭 秀夫、
藤田 敦子、林 律、中村 信博、浦 晴子、菅 恒敏、
宗教法人 国際シャローム・キリスト教会、坂口 みどり、
武田 正一、日本基督教団希望ヶ丘教会、中西 綾子、
樋口 よう子、日本キリスト教会吉田教会、川北 かおり
多田出加代子、糸原由美子、木原 諄二、春名 康範、
鳥井 清司、鳥井 操、東 千代、島田 恒、杉本 尚司、
岩坂 二規・泰子、真鍋 裕子、榎本 栄次、
日本キリスト教団和歌山新生伝道所

四季だより

～巨木の生命力～

関西セミナーハウス庭園担当 榊 廣光

枯れてしまった樹齢千年を超える楠の巨樹が、再び甦ったということをテレビで知った。「下関市川棚クスの森」というちょっとしたパワースポットらしい。三年ほど前、根腐れで枯れ始め一年ほどで枯れてしまった。保存会の尽力で翌年、突然、胴回りから芽吹き始め甦ったという。

樹木医曰く、樹木は「潜伏芽」というものが備わっている。非常のとき樹が折れたり、切断されたり、弱ったときなど突然に潜伏芽が発芽するというのだ。潜伏芽は普段は樹皮上で休眠したり樹皮の内側に埋没して休眠しているようだ。

すばらしい生命力だ。非常のときの「備え」である。

枯れた原因は病気なのか人為的なものか究明中である。一部では造成工事が原因とも。

楠に限らず、大小様々の木々をそこらでごく当たり前に目にすることができる。だがその「恵み」は計り知れない。

関西セミナーハウスの別館東側の曼殊院の竹藪の中にも樹回り大人三人がかり、高さ25メートルはあろうかと思われる「楠の巨木」が鎮座している。手を触れると何か、感謝と畏敬の念が湧きでてくる。かたや地球規模で地震、火山噴火、森林火災や河川の氾濫などが起きている。人の欲望の末だろうか。人は知恵を備えているはずだ。その英知を結集して営みを護っていかねばならないと思う。